

# 「第30回東北農研市民講座」のご案内

**テーマ：長期哺乳で子牛の発育アップ！**  
**～周年親子放牧の普及に向けた取り組み～**

ひがしやま ゆみ

話し手：東山 由美（農研機構東北農業研究センター 上級研究員）

乳用牛では、分娩後に分泌されるミルクが商品となるため、分娩後すぐに子牛を母牛と引き離し人工哺乳します。一方、肉用牛ではその必要はなく、子牛はしばらく母牛から直接母乳を飲んで成長します。しかし最近では、様々な理由から肉用牛でも早い段階で子牛を母牛から離したり、ミルクから穀物主体の配合飼料に切り替えて子牛を飼養することが増えてきました。そのような中、子牛を母牛のもとで育成するメリットが見直されています。その取り組みとして、今回は母乳や草を与えて子牛を育成する周年親子放牧をご紹介します。



母乳を飲む子牛



母牛からケアされる子牛

- 日時** 2019年12月7日（土） 9：30～10：30
- 場所** 農研機構東北農業研究センター 北辰興農閣研修室（岩手県盛岡市下厨川字赤平4）
- 定員** 50名、どなたでも参加できます（小学生以下は保護者同伴）。  
 ただし希望者多数の場合は、先着順とさせていただきます。

**参加申込み・お問合せ**

農研機構東北農業研究センター 地域戦略部研究推進室

メール：www-tohoku@naro.affrc.go.jp 電話：019-643-3414 FAX：019-643-3588

12月5日（木）までに

住所、氏名（ふりがな）、電話番号をお知らせ下さい（できればメールで）。

電話、FAXの場合は平日9時～17時にお願ひします。

当日の飛び入り参加も大歓迎です。



メール申込み用  
QRコード

**参加費無料**  
**お茶やコーヒーをご用意します。気軽にご参加下さい。**